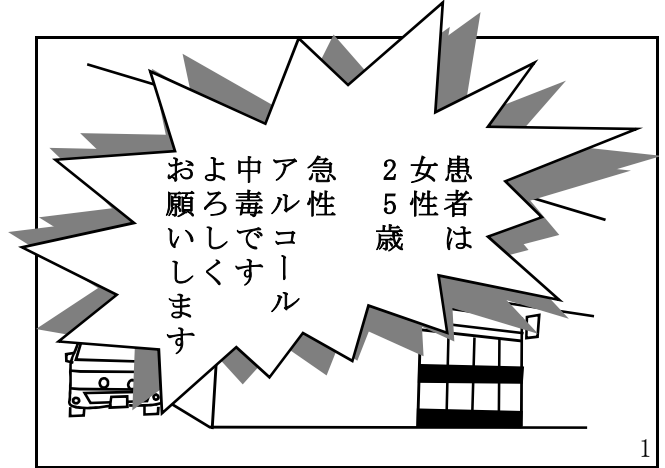


啞然…救急車で運ばれてきた彼女の意外な姿とは



啞然…救急車で運ばれてきた彼女の意外な姿とは



啞然…救急車で運ばれてきた彼女の意外な姿とは



啞然…救急車で運ばれてきた彼女の意外な姿とは

編集後記

メールマガジンで受信した情報と似た事例を、懇意の先生から聞いたことがあります。私の周りでもこの歳になると経験したことがあります。どこでも発生する事態ですし、アウトプットとして色々なケースがあるので、未来を予測させるイメージで止めてみました。

資料

もぐもぐ先生:医師、啞然…救急車で運ばれてきた看護師の意外な姿とは, m3, 20240325

副業をしている医療者は意外という

「医師です」とプライベートで申すと、「お忙しいのでしょうか」とよく言われます。世間的に医師は多忙というイメージがかなり強いようです。確かに大多数の医師は多忙であるのは間違いありません。

最近、一般社員の世界では年功序列制の終身雇用が減少傾向にあり、若手の会社員の間では転職や副業も当たり前になりつつあると聞きます。しかし、アルバイトや非常勤があっても、副業をしている医師の話はそう聞きません。医師は本業が忙しすぎて、副業をする時間がないためでしょう。

一方、医師以外の医療者はシフト制でメリハリがあるためか、意外と副業をしている方もいます。例えば、とある個人病院の放射線技師長は病院近くのアパートオーナーであり、何人かの職員を入居者に迎えているという話を、友人医師から聞いたことがあります。

夜勤・遅出NGを申し出た新人看護師

その理由は育児ではなく…

別の友人医師であるモチヅキ先生（仮名）からは、ある女性看護師の副業エピソードを教えてもらいました。

モチヅキ先生の病院は看護スタッフの総数が20人前後で、スタッフの少なさから皆顔馴染みという小さい個人病院です。そこに新人看護師のワタナベさん（仮名）という方が病棟配属で入職されたのですが、入職時に「夜勤や遅出はNG」という条件があったそうです。

職員は初め、きつとご自宅に小さなお子様でもいるのでしょうかと考えていたそうです。しかし、どこからともなくワタナベさんは独身独居らしいという話になり、なぜ夜の予定がつかないのかは、病院の七不思議のようになっていました。

モチヅキ先生も、いちスタッフとして気にはなっていましたが、あくまで個人的な話なので、詮索したりはしませんでした。

とある夜のことで、体動困難、嘔吐を主訴に、救急車で派手な身なりの女性が救急搬送されました。飲食店、いわゆるキャバクラのキャストの女性で、診断は急性アルコール中毒。

そしてなんと驚くべきことに、そのキャストの人物はワタナベさんでした。どうやらワタナベさんは、キャバクラの副業を理由に夜勤NGとしていたようです。残念ながらその病院は副業禁止の職務規定であったため、ワタナベさんは後日、規定違反から退職いただく運びとなりました。

遊ぶ金欲しさではなく、やむにやまれぬ

事情での「副業」だったのかもしれない

最近テレビで、奨学金返済が苦しく、夜間に水商売をするインテリ大学生のドキュメンタリーを目にしました。モチヅキ先生も「ワタナベさんは日中真面目に働いていた」と言っていたので、遊ぶ金欲しさというよりは、借金など、やむにやまれぬ事情もあったのかもしれないと想像してしまいます。

真相は今となっては不明ですが、話を思い出すと胸が詰まってしまうエピソードでした。